

# エコア株式会社

訪問者

(公社)東京都ペストコントロール協会理事 広報委員長 葛西 晋平

第4回を迎える今回、会員訪問シリーズとしてお邪魔させていただいたのは、立川市にあるエコア株式会社である。

立川市は東京都の西寄りに位置し、多摩地区最大の乗車人員数の立川駅と、400万人の人口を有する東京三多摩地区の中心都市として、商業施設やオフィスが集積している。

また、有事の際は内閣総理大臣を本部長とする緊急災害対策本部が設置可能な、立川広域防災基地を有す防災都市でもある。

今回お邪魔した「エコア株式会社」は東京都立川市羽衣町1-5-15に本社を構え、葛西が平成27年10月27日に訪問し、代表取締役会長宮澤公廣さんにお話を伺った。お忙中のところ、お時間を作っていただいたことに深い謝意を表します。

(葛西) 本日はお忙しい中、お時間を頂きありがとうございます。

(宮澤) よろしくお願ひします。

(葛西) 私自身、エコア株式会社さんに対する予備知識がほぼゼロに等しかったのですから、ウェブサイトで少々予習をしてまいりました。その中で驚いたのは、業務内容がPCOだけではなく、非常に多岐に亘っているという事でした。これはもともと行っていた業務と隣接するものがどんどん枝分かれしていったという事なのでしょう。

(宮澤) 隣接しているからという事ではありません。まず当社の、と言いますか私の原点として環境学があります。

昭和54年エコア株式会社(設立時は社名が違う)を設立したのですが、同時期



立川駅近くにある本社屋

東京都の公害監視委員会委員(※1)も務めておりました。日本経済はまだまだ右肩上がり、道路や建築物がどんどん造られ、乱開発により自然破壊やスモッグ等が酷い状況でした。それらを目の当たりにし「人間本位の身勝手なエゴであり、何とも排他的な都市だ」と感じたのです。私はその時以来、環境と言うものを深く考え、正しい方向へ

導かなければいけないと強く思いました。それが自分にとっての使命なのだ。

(葛西) その頃ですと、私の住んでいた周りでも宅地造成で林が無くなったり、光化学スモッグで喉が痛くなったのを覚えています。

(宮澤) 東京のみならず、地方都市でも川や大気の汚染により、いくつもの公害が発生しました。

この頃から環境と言うものを殊更意識し出したのだらうと思います。その後、米ワシントン大学のコールダニエル教授のもとで更に深く環境学を学びました。

(葛西) 環境学とは具体的にどの様なもののですか。また、ワシントン大学ではどの様な研究がされていたのでしょうか？

(宮澤) 環境学とはマクロな部分では「真・細菌の世界」であり、大きな意味では「地球」であると思います。その間には無数の環境が存在し、それらを構成する要素が何なのかと言うものを考えるものです。私の言うところの環境学とは、特にライフスタイルや人工物と自然環境の共生を指します。人間のみが有るのではなく、自然や他生物と共生する必要性があるとの考え方からです。

公害だけではなく、我々が行っているPCO業務で対象としている、ネズミやゴキブリも人間に迷惑を掛けようと思っているわけでは無いですね。建物や下水、ごみ置き場など、人間が作った設備に居ついてしまった。餌も水も

住処もある訳ですから。

公害監視で数寄屋橋の地下を調査しているとき、目の前を黒い波のようなものがサーッと動くんです、それはドブネズミの集団でした。まさしく人間の作り出した環境がネズミの巣になっていました。それらを駆逐しようとして薬剤を散布する行為も自然に対し負荷をかける行為になりますよね。昔からメーカーの方には言っていたのですが、殺虫剤はもういらないんじゃないか。忌避じゃダメなのかと。その当時じゃ、まだまだ現実的な話ではないし、営業の方相手にそんなことを言ってもなかなか理解してもらえない。

今でこそ、IPMという考え方が出てきて良かったですが。

(葛西) 世間的な風潮として難しい話でしたでしょうね。

(宮澤) つまり、人間が何かアクションを起こし、良し悪しを問わず結果が出ます。その結果如何によってまたアクションを起こす必要性が生じる。それらの無限の繰り返しが環境を構成しているのです。地球の環境はすべて私たちの生き方につながっていると言えるでしょう。

ワシントン大学での研究は、まずエネルギーです。石油燃料の枯渇をいかに補うかと言うテーマでコーンや澱粉から油を抽出して、車を動かす実験をやっていました。ゆっくりではありましたが、実際に走っていました。次いで感染症、そして宇宙開発についてです。それぞれは別物のように見えます

# エコア株式会社

が、人口増加が進む中、先ほどのエネルギーの不足、住環境の悪化による感染症の問題、そして人口過密による居住地の不足など、まさに先を読むことで研究をしていました。

(葛西) 最初はテーマが大きすぎて、環境学とは何なのかと理解できなかったのですが、サイクルの中に人もあり、自然や害虫獣と呼ばれているものを含む生物や、様々なものが有るのだなと納得しました。それらが相互に影響し合っているという事ですね。故に一方通行になりがちな人間の行いから、共生へと変化しなければいけないという宮澤さんの考え方が根底にあると理解できます。ワシントン大学の話も同様に納



自社開発した製品やその説明が並ぶ

得できました。

(宮澤) 最初の質問の答えですが、隣接業務として多岐に亘り業態が有るのではなく、流動的で複数の要因が有る環境と言うものを考えると、そういった悪い部分を改善するためには、その前段としてここを改善する必要があるのではないか…という考え方により、業態が増えていった、という事です。私が思い描く理想を形にすると会社の構成もこうなるという事です。

(葛西) なるほど、まず仕事ありきではなく、宮澤さんのお考えを具現化するところなるというのが、現在のエコア株式会社なのですね。

(宮澤) 余談ですが、仕事で使用する機材なども一般的に売られているもので納得できないと自分で作ってしまいます。

時間やお金は掛かっても、使い勝手や効果が期待できないなと感じた時は、そうしてしまうのですね。

(この後、宮澤さんご自身から、様々な自社開発製品を見ながら説明していただいた)

(葛西) 長い時間色々伺ってまいりましたが…。まだまだお話は尽きないと思いますが、何か業界に対して一言お願いします。

(宮澤) 最後に、我々が行っているPCO業務と言うのは、海外では非常に評価を受けている仕事です。日本国内ではまだまだですが、そういった事を今後の人たちに伝えて、更に誇りを持って仕事をしてほしいと思います。

(葛西) 本日はありがとうございました。

## ※1 公害監視委員会委員

公害行政に対する住民参加を制度化するため、東京都公害防止条例に定めている機関。100名の地域および職能代表で構成され、環境問題に関して行政施策の動向を監視し、この調査を行い、また施策について提言することができる。その構成員。